

函館市観光基本計画（案）に関する策定検討委員会の 意見反映について

（１）入込客数の目標設定について

（中野委員）

- ・北陸新幹線開業の年も入込を落とさないように努力すべき。
→P 5 2 グラフを右上がりに修正。

（田中委員）

- ・災害や経済危機などの外部要因に大きく左右されるので、「外部条件によって目標値は変更される」という一文を加えるべき。
→P 5 2 説明文の最後に、以下の文言を追加。

「なお、観光入込客数については、災害や経済危機などの外部要因に大きく左右されることから、状況によっては、5年後の中間評価の際に、目標値の見直しを検討することとします。」

（２）経済波及効果について

（田中委員）

- ・他産業との比較が一目でわかるようなものがあればよい。
→他産業の効果倍率については、同様の調査を産業ごとに別途行う必要があるため、算出は難しい。

（中野委員）

- ・地域経済全体での観光への「依存率」のようなものがわかれば理解しやすい。
→P 4 2 およびP 4 3 に、市内経済への貢献度について記載している。

(奥平委員)

- ・比較にあたり，他都市の生産波及効果倍率を追加するということだが，道内の都市だけか。

→道外を含め，他都市の状況を調査した結果，比較可能なデータとして，新たに「京都市」と「長崎市」の生産波及効果倍率を追加。

(3) 目標設定について

(西村委員)

- ・経済効果を考えるならば，観光入込客数だけではなく，より効果の高い宿泊客数も目標値として持つべきではないか。

→P44「函館観光の課題」のほか，P52に，地域経済に効果の大きい滞在型観光の実現に向けた取り組みを積極的に推進していくことについて記載しており，なおかつ，P53に，平均宿泊数の増加という目標を設定していることから，そうした視点は内包しているものとする。